

# 令和4年度 GIGA校内研修 実践報告

学校名 ( 石川県立小松工業高等学校 )

月	研修テーマ[研修形態]	担当	関連する行事等
4月	・昨年度の成果と課題、今年度の建艦計画を説明[全体会](4/7) ・Googleサイトにまとめた昨年度の校内の実践事例を確認[個人]	企画情報課 各教員	GIG校内推進リーダー研修(4/26)
5月	・若プロによる校内研修「第1回クロームブックの基本操作」の実施[個別](5/18)	若プロコーディネータ、若プロ教員	GIG校内推進リーダー研修(5/17)
6月	・若プロによる校内研修「第2回クロームブックの操作」の実施(6/30)	若プロコーディネータ、若プロ教員	
7月	・若プロ教員によるICTを活用した公開授業とベテラン教員の参観(7月中)	若プロ教員	第1回校内アンケートの実施(対象は生徒および教員)
<b>中間目標</b> ・全ての教員が1学期中に若プロの対象教員による校内研修「クロームブックの基本操作」に最低1回は参加する。 ・全ての教員が授業で生徒1人1台端末を活用する。			
8月			GIG校内推進リーダー研修(9/16)
9月	・若プロによる校内研修「第3回クロームブックの操作」の実施[個別](9/26)	若プロコーディネータ、若プロ教員	
10月	・外部講師を迎えた教科別研修(数学科)(10/18)	県教員研修センターの指導主事	
11月	・ICTを活用した授業実践を1枚の写真とコメントで校内限定サイトを使い紹介。(29事例)(11/30)	各教員 企画情報課	
12月	・先進校視察(県立野々市明倫高等学校)(12/7)と職員会議で報告(12/21) ・生徒のクロームブック使用ルールについて学習指導委員会で検討	企画情報課	第2回校内アンケートの実施(対象は生徒および教員)
<b>中間目標</b> ・個別学習の具体的実践事例を全教員(若手教員、ベテラン教員)が知っている。 ・若手教員が個別学習における授業実践を1人1提案し、校内サイトで共有する。			
1月	・12月末時点のGIGA校内研修の報告書を作成し、校内限定サイトで公開することで教員間で共有。(1/11)	企画情報課	
2月	・若プロによる校内研修「第4回クロームブックの操作」の実施[個別](2/21)	若プロコーディネータ、若プロ教員	
3月	・実践のまとめ[全体会] ・次年度に向けて[全体会]	企画情報課	第3回校内アンケートの実施(対象は生徒および教員)
<b>目標「令和4年度末にめざすICTを活用した学びの姿」</b> 1 全ての生徒が1人1人の習熟の程度等に応じた学習(個別学習)の場面において、ICTを使うことができる。 2 全ての教員が一斉学習、個別学習の場面において、ICTを活用することができる。 一斉学習の例としては、教員による教材の提示(画像の拡大表示や書き込み、音声、動画などの活用)などを想定。 個別学習の例としては、個に応じる学習・調査活動・思考を深める学習・表現制作・家庭学習などを想定。			

ベテラン教員が若プロ対象教員の授業を参観することで、授業づくりの視点で端末活用を高めることができる。

授業実践の交流を写真とコメントを入れて実施している。数多くの事例が校内限定のサイト内に蓄積できている。

校内研修の成果が見られている。課題には、次年度へつなげる内容が具体的に記載されている。

## 成果

11月にICTを活用した授業実践の紹介をお願いしたところ、29名の教員から実践事例を紹介があった。また、12月に実施した教員対象のアンケート(質問:授業でのICT活用状況について昨年度との違い)では47名中、44名の教員から「昨年度よりも少し操作に慣れてきたようだ」や「他人にちょっとした使い方を教えたことがある」などのポジティブな回答があった。このことから今年度実施した若プロ対象教員による校内研修や、ベテラン教員と若手教員の授業の相互参観と助言等を通してICT活用の情報共有が促進され、スキル向上につながったと考えている。  
 具体的なICTの活用方法を尋ねたアンケート結果では、一斉学習、個別学習、協働学習の3つすべてに回答した割合が41%と最も多い結果となったことから、活用場面を意識した中で実践が広がってきたとみられる。

## 課題

実践事例が増えてきた中で、1つ1つの授業の質について検証が求められる。その理由として、令和3年度の国の調査「学校教育情報化推進計画」で実施されたアンケート結果からは、質問「B-3 知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませる。」「B-4 グループで話し合っって考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。」「C-4 児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。」の3項目について「できる」と「ややできる」の割合が64%程度と他の質問と比べて低い傾向が見られた。実践の質よりも量を目指した今年度に対し、次年度は外部講師を招聘するなど、実践内容について助言をいただき、質を改善する取組が必要と考える。